

ふくしま復興展

ふくしま平安ものがたり

会 期 平成28年7月23日(土)～9月25日(日)
会 場 福島県文化財センター白河館
主 催 公益財団法人福島県文化振興財団

プロローグ

まほろんへようこそ。僕は、^{ほうおう}鳳凰っていう伝説上の鳥なんだ。ホウくんって呼んでね。今回の企画展でナビゲーターをつとめるのでよろしくね。

それでは、みんなに聞くけど、平安時代ってどんな時代かわかるかな？
こころみに小学6年生の教科書を見てみると、都が平安京に移ってから鎌倉時代になる前の約400年間で、藤原道長を代表とする貴族や^{むらさきしきぶ}紫式部などの^{じゅうにひとえ}十二単を着た女官が和歌や蹴鞠などに興じ、日本風の文化が生まれた時代と説明されているね。みんなの平安時代イメージはどうか？

まほろんには、福島県内の遺跡から発掘された平安時代の出土品がたくさんあるけど、それらから推定される平安時代の福島県の様子は、京の都のイメージとは大きく違うことがわかってきたんだ。今回の展示では、それらの出土品から^{そうさく}創作した3つのものがたりを通して、郷土ふくしまの平安時代を紹介していくよ。

それでは「ふくしま平安ものがたり」を一緒に^{ひもと}紐解いていこう。

平安時代の主なできごと

教科書でならう主なできごと

※赤字は小学校

- 794年 平安京(京都府)に都を遷する
- 797年 坂上田村麻呂が征夷大將軍となる
- 866年 応天門の変(藤原氏の台頭)
- 887年 藤原基経が関白となる
- 894年 遣唐使が停止される
- 935年 平将門の乱(承平・天慶の乱)
- 1016年 藤原道長が摂政となる
- 1086年 白河上皇の院政が始まる
- 1156年 保元の乱・平治の乱(1160)
- 1167年 平清盛が太政大臣となる
- 1185年 平氏がほろびる、源頼朝が守護・地頭の設置を認められる。
- 1192年 源頼朝が征夷大將軍となる(鎌倉時代のはじまり)

福島県周辺の主なできごと

- 724年 陸奥国府多賀城が造られる
- 728年 白河軍団が組織される
- 774年 蝦夷との戦いが始まる(38年戦争)
- 811年 蝦夷との戦いがおわる。県内の軍団(安積・行方・白河)が解体される
- 815年頃 白河軍団、安積軍団、行方軍団、磐城軍団が再組織される
- 869年 貞観地震発生 多賀城等に被害
- 905年頃 安達郡(二本松市など)が設置される
- 1189年 源頼朝軍が阿津賀志山(国見町)で平泉軍、石那坂(福島市)で信夫佐藤軍を破る

奈良時代

平安時代

みわひとのたびと
神人旅人（仮名）は、陸奥国白河郡松田郷の農民で、父母、妻子とともに田畑を耕し、山に入り獸をとって暮らしておりました。

当時の農民は、稲や布を税として郡の役所に収めていました。また、年間に決められた日数の強制労働や兵役がありました。

貞観 11 年の初夏、旅人は徴兵により郡の役所に集められ、軍団兵士として陸奥の国府多賀城に赴きました。弓の達者な旅人は、弓隊の隊長として国府の端にある港湾施設と船の警備を任されました。

一方、残された家族は、旅人が兵役で不在であっても稲で納める税は納めなければならず、自分たちの口分田の他に旅人の分



貞観 11 年：西暦 8 6 9 年 口分田：国が農民に対し税を取るために分配した田

ともへのかねたり
伴部金足（仮名）は、陸奥国行方郡真吹郷の鍛冶屋でした。真吹郷は、飛鳥時代から浜の砂鉄を使った鉄づくりが盛んな地域だったので、その鉄を使って金足は様々な道具をつくりました。また、鍛冶仕事の無い時期には、製鉄技術者の指導の下、炭焼きや砂鉄選別、粘土採掘、羽口づくりなど鉄づくりにかかわる仕事にも従



平安時代の福島県浜通り地方は、鉄をつくっていた規模が日本で最大の地域なんだ。なぜ、福島県で鉄づくりがおこなわれたのかというと、この時期、政府の支配下になって間もない東北地方北部の開発が始まり、多くの農工具や武器が必要になったんだ。鉄を作る技術は重要だったので、特別な技術者を派遣して国家の統制のもと行われたんだよ。だから、鉄が必要な地域に近くて、政情が安定しており、砂鉄がとれる福島県の浜通り地方が鉄づくりの地に選ばれたんだ。



平安時代の鉄づくり最盛期（9世紀）のようす

事していました。貞観 11 年の夏、大きな揺れの後に襲ってきた大津波は、金足の住む真吹郷を飲み込みました。金足の家族は無事でしたが、郷中の田畑が水に浸かり、多くの郷人が行方不明になりました。役所からの生活支援はあったものの、生活の基盤を失った者達は一人、また一人と真吹郷を出ていってしまいました。

悪いことは重なるもので、国府は津波以前から森林資源の枯渇しかけていた真吹郷での製鉄事業を放棄することを決定し、製鉄技術者達も他の郡へ去ってしまいました。このままでは



生活が立ち行かないと、金足は、郷に残った同世代の若者達と見よう見まねで鉄づくりに挑戦することにしました。はたして金足は、鉄をつくることができましたののでしょうか！？

羽口：鉄をつくる炉にとりつけられた風を送るための土管 官物：税としてあつめた様々な品 網丁：官物輸送する現場責任者。多くは豪族が担った。 郡家：郡の役所 賭弓：物品を賭けてきそう弓遊び 海道：福島県では浜通り地方 町：長さの単位。1町はおよそ109m

おおきさいのますつぐ
大私益継（仮名）は陸奥国会津郡倉精郷の馬飼いです。若い頃は官物を運ぶ網丁の下で郡家と国府、時には京の間を行き来しておりました。ある時、網丁である郡司の屋敷で賭弓が催され、益継も参加することになりました。益継はみごとに優勝し、褒美に絹織物をもらいました。

益継は、その絹織物を大型の農工具と交換しました。また、耕す者がいなくなった近くの荒田を借り、人を雇って耕作しました。その結果、秋には多量の稲が穂をつけ、自宅の一面に倉を設けるまでになりました。益継は、蓄えた稲を飢饉の地域に運んで売ったり、税の払えない農民に貸し付けたりして次第に財産を増やしていきました。それから数年がたった貞観 11 年の夏、大きな地



震があり海道方面に大きな被害が出ました。陸奥の国司は、国内の富豪に対して私財の献納を求め、益継の元にも1万束の稲の供出が依頼されました。大きな出費でしたが、益継は被災地への物資の運送も請け負い、国司の信頼を得ました。次の年、私財献納の功により益継は官位を得、会津郡でも有数の富豪となりました。益継は一町四方の大きな屋敷を建てたことから、屋敷長者と呼ばれたということです。



富豪の屋敷跡（会津若松市屋敷遺跡：旧湯川沿い西岸に営まれた屋敷跡で、約 100m 四方の溝に囲まれていた）



国重文 くまのじんじやなごとこ
熊野神社長床（喜多方市）



国宝 しょうじょうじやくしにょらいざう
勝常寺薬師如来座像（湯川村）
写真提供：湯川村教育委員会



県史跡 にしはらいじあと
西原廃寺跡（福島市）
写真提供：福島市教育委員会



国重文 だいざうじせんじゆかんぜおんぼさつりゆうざう
大蔵寺千手観世音菩薩立像（福島市）
写真提供：福島市教育委員会



県重文 けんぼんちやくしよくえにちじえず
絹本着色恵日寺絵図（磐梯町）
写真提供：磐梯町慧日寺資料館



県史跡 こはたやまきょうづかくん
木幡山経塚群（二本松市）
写真提供：二本松市教育委員会



県重文 ながれはいじあとしゆつどきんぎんぞうがんてつけん
流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣（棚倉町）
写真提供：棚倉町教育委員会



国宝 しらみずあみだどう
白水阿弥陀堂（いわき市）
写真提供：願成寺



国史跡 だいはさんかんのんどうせきぶつ
大悲山観音堂石仏（南相馬市）

エピローグ



出土品でつづる3つのものがたりはどうだった？平安時代のイメージは変わったかな？最後に福島県に残る平安時代の信仰について紹介して、ものがたりを締めくくるよ。上の図は福島県内に残る平安時代の信仰に関連する代表的な施設や遺物だよ。見てわかるように仏教に関連するものが多いよね。ふくしまに暮らした人々は、平安時代以降も仏像やお堂を大事にしてきたので、千年近くたった今でも、それらが残っているんだよ。

今回の展示を見て、福島県の歴史に興味を持ったみんなは、上に載っているお寺や神社を巡ってみるといいよ。歴史の重みと本物が持つ感動を体感できるかもしれないよ。

それではこれで、僕は栗木内の鏡に帰ります。またどこかで会おうね。

ずいかそうちようはちりようきよう
端花双鳥八稜鏡（玉川村栗木内遺跡）

本展の開催にあたり、次の機関・個人の皆様からご協力とご指導をいただきました。厚く御礼もうしあげます。（順不同）

福島県教育委員会・福島市教育委員会・南相馬市教育委員会・二本松市教育委員会・棚倉町教育委員会・湯川村教育委員会・恵日寺・願成寺・大蔵寺・勝常寺・磐梯山慧日寺資料館・東北歴史資料館・石川県埋蔵文化財センター・

平成28年度 ふくしま復興展
ふくしま平安ものがたり

発行日／平成28年7月23日

編集・発行／公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館

〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86

Tel：0248-21-0700